



吉野よしこの議会報告

<http://yoshino.seikatsusha.me/>

<一般質問>

◇安全と環境に配慮したまちづくり

市民のみなさまからいただいているご意見をもとに、暮らしやすいまちづくりにむけての具体的な提案をしました。

狛江三叉路から新一の橋交差点間の世田谷通りは、駅や保育園、バス停等を利用するために市民が二つある横断歩道の間地点を渡る姿を頻繁に見かけます。交通規制基準では留意事項として「横断歩道の間隔は市街地でおおむね 100m以上」となっており、「特に横断歩行者が多い場所」との記載もあります。指摘した箇所の間隔は 250mで条件を満たしており、市民の利便性と安全性向上のために横断歩道を新設すべきです。所轄である調布警察署に要望するとの答弁でした。

また、商業施設においても市民の健康や快適な生活への配慮は必要です。狛江駅小田急マルシェの空調の室外機の不快な温風が直接歩行者に当たっている現状を改善するようを求めました。

「水と緑のまち狛江」として環境負荷のより少ない石けんの使用を進めるべきです。身近に溢れる合成洗剤との違い、その毒性についても周知啓発の必要性を指摘し、こまエコ通信等を活用して行っていくとの答弁を得ました。6月は環境月間。こまエコまつりが開催され、大勢の市民でにぎわいました。昨年の反省を踏まえ雨天の対応等も万全にし、多くの市民団体の参加・協力を得て、特に子育て世代が楽しめるように工夫したとのことです。狛江市民が気軽に環境について知ること、触れることができるイベントと言えます。

参加団体のエネルギーシフトを実現するこまの会(エネこま)は市内での小水力発電の可能性を調査しており、市は協働事業として実現するため積極的に取り組むよう要望しました。

◇誰もが地域で暮らし続けるために

狛江市ではここ数年、戸建て住宅やマンションを合わせると約 500 戸が新築されています。一方、空き家空き室も社会問題化されて久しく、狛江市でも実態調査を実施しています。H29 年度に空家等対策推進協議会準備会を立ち上げ、今年度中に空家等対策計画と条例を策定するとの答弁で、ようやく活用に向けて動き出したと言えます。

65 歳以上高齢者単身世帯は 4652 世帯 (H27 年度国勢調査)。行政サービス等を利用していない元気な高齢者へは見守りや交流などの地域の体制づくりに重点を置くとのことでした。

福祉的就労だけでなく障害者の「働く」環境の整備が求められています。日野市などで多様に創出・実践されている「地域で住む・働く・暮らす」取り組みを紹介し、市民に学習や見学の機会を提供すべきと提案しました。精神障がい当事者が、ピアサポーターとして働くための育成支援や、農福連携として、農業者の協力を得て福祉農園への段階的な試行を行うことなどを要望しました。

市民活動支援センターについては、狛江 6 小で実績のある日本空間デザイン協会とのコラボで、周知のためのワークショップを提案し検討するとの答弁でした。そのほか、安心して外出するためのトイレとベンチの充実の必要性を指摘しました。

狛江・生活者ネットワーク

狛江市東和泉 1-1-25-101

TEL03-3430-1302 fax 03-5761-0678

E-mail

komanet.seikatusya@nifty.com